

拝啓「たかがお笑い」様

「あなたを追及していけば、人間というものにつき当たります」

人を笑わす事を、自分の人生のテーマにしてもうどのくらい経つのでしょうか。「お笑い」なのにずいぶんあなたに泣かされ、考えさせられ、つらい思いをさせられたような気がします。

それもすべて、私がプロを意識した時からはじまりました。あなたとつき合うには素人としてつき合うのが一番楽しいかもしれませぬ。あなたに惚れた私がいけなかったのです。でも、心底惚れて、あなたの魅力にとりつかれてなかったら、ここまでもたなかつたと思います。

あなたを追及していけば、人間というものにつき当たります。そして、あなたを知ろうとすればするほど、自分の人間性を磨かなければという事にぶつかります。みかけのギャ

グや間よりも、それを発するその人の人間性のほうが大事だという事がわかってきます。世間でよく言うキャラクターという言葉は、私はその人の人間性を言っているよ
うな気がします。ですから作られたキャラクターというのは、
すぐバレてしまいます。お笑いというのは、その人、その人の
ウソでない人間性がベースにあって成り立っているような
気がします。

自分がいつちよ前に売れてみて初めて感じたことがあります。
それは、売れている人間でほんとうに心の底から悪
い人間は一人もいないということです。キャラクターや存
在感や、主張が求められる世界ですから、いわゆる、みん
ないの意味でアクは持っています。でも決して悪はいません。
お笑いを修業するということは、人間を修業するとい
うことかもしれませぬ。

考えてみれば当たり前の話です。人間を笑わせるので

すから、人間を知らなければ笑いなんかとれるわけありません。今更ながら思います。あなたは実に奥深い道です。そして、あなたを目指すものにはあなたは底を見せません。シッポをつかませません。おそらく死ぬまでどこかではあなたを分らないまま、私も死んでいくことでしょう。

今ではさすがに私が惚れた道だと感心しています。そして、そう簡単にあなただを知らないものに、あなたを分かってたまるかという気持ちがあります。

ふつつかな者ですけど、これからもあなたと面と向かって仕事をさせてもらいます。

どうぞ、お手柔らかに……